

お母さんになったら

11月号

上手な叱り方ってあるのでしょうか？

上手な叱り方は、子どもの立場になって考えてみることです。子どもにとって一番傷つくことは、できないことを叱られることです。子どもは一人ひとり発達が違います。同じ年齢でも靴がはける子、はけない子、お箸が持てる子、持てない子などいろいろです。できないこと、また、その子の気質から苦手なこともあると思います。大人でも歌が苦手なのに「歌ってみて」と言われ、うまくできなくて責められたりすると傷つくでしょう。子どもはなおさらです。



① 結果を性急に求めすぎていませんか？

約束もそうですが、しつけは一朝一夕にできるものではありません。長い目で見ることが大切です。



② 子どもの言い分も聞いてみるようにしましょう。

泣いたりかんしゃくを起こすには、子どもなりに理由があります。ケンカにしても、手をだしたのが、相手が先ということもありますし、それを頭ごなしに叱られては、子どもは、「お母さんは何も聞いてくれない」と感じてしまうでしょう。聞いたうえで、「そうだったの。でもね…」と話し合えば、子どもも少しずつ聞き分けが良くなるものです。

うまくできなかったけれど、頑張った、失敗したけど最後まで頑張った、親がほめるべきことは、そういうプロセスです。ほめるというよりは、頑張ってきたことを「認める」というふうな接し方がいいと思います。



“失敗しても成功しても、あなたが大好き、あなたが大事”というメッセージを子どもにおくりましょう。